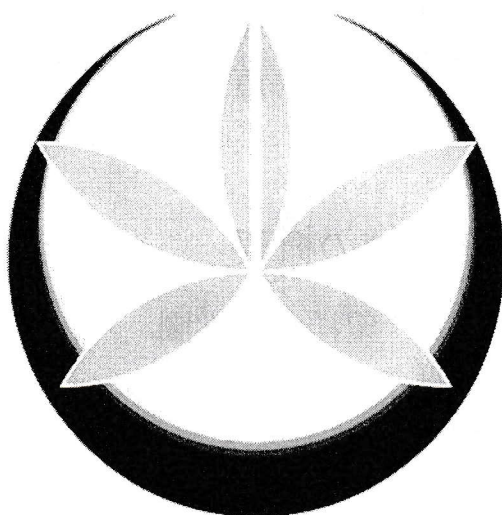


2023年度北海道大谷学園連合会
高等学校相互評価報告書

対象校 北海道大谷室蘭高等学校



HOKKAIDOOTANI
MURORAN HIGH SCHOOL

評価校 帯广大谷高等学校

(実施日：2023年11月28日)

2024年3月31日

北海道大谷学園連合会相互評価委員会

北海道大谷学園連合会評価委員会

主査	中西 猛雄	(北海道教区大谷学園委員会委員)
主査代理	土山 泰弘	(北海道教区大谷学園委員会委員)
委員	金石 潤導	(所長推薦・南第3組開正寺住職)
委員	小野 茂	(帯広大谷高等学校 校長)
委員	佐藤 真司	(帯広大谷高等学校 教頭)
委員	木村 泰優	(稚内大谷高等学校 教頭)
委員	澤田 満	(北海道大谷室蘭高等学校 教頭)
委員	庭田 尋生	(北海道大谷室蘭高等学校 事務長)

北海道大谷室蘭高等学校の概要

設置者	学校法人 望洋大谷学園
理事長名	西崎 習一
校長名	竹本 将人
開設年月日	1958年1月
所在地	北海道室蘭市八丁平3丁目1番1号
設置学科	普通科
入学定員	225名 (総定員675名)
教職員数	総数 46名 (常勤 32名 非常勤 14名)

調査結果

I 建学の精神・教育理念、教育目標・学校目標

建学の精神・教育理念については、学校行事・日常の教育活動すべてが、これに基づいて行われており、生徒の情操教育に反映されている。また、真宗大谷派北海道教区に講師を依頼し、建学の精神の具現化に努めている。さらに、生徒には1泊2日で東本願寺北海道青少年研修センターで、教職員には学校で、年2回の宗教教育研修が行われ、教育理念の具現化に努めている。

以上のように、建学の精神に基づいた教育が徹底されている点が評価できる。

II 分掌

【教育課程・学習指導（教務）】

教育課程については、各教科のシラバスを全教職員に配布し、内容を共有している。

学習指導については、定期考査で成果を発揮できなかった生徒に対して、補習等組織的な取り組みが行われている。学習意欲向上に向け、学校全体で取り組んでいる姿勢が見られる。また、キャリア教育の一環として、様々な資格が取得できる機会を多く設けている。その他、外部講師を招いて、今やるべきことやマナー等、社会人や大学生等になる前の心構えを学ぶ機会を設けており、進路選択に活かされている。

以上のように、教育課程・学習指導について、十分な取り組みがなされている点が評価できる。

【生徒指導・部活動（生徒指導・生徒会）】

生徒指導については、「規範意識の育成と基本的生活習慣の確立」をスローガンに掲げ、家庭訪問、個人面談、学級通信、懇談会等を計画的に実施している。このような取り組みにより、今年度の指導処置（停学・退学）がほとんどない。自由な校風の中にも日常の生活指導が徹底されている点が評価できる。

部活動については、全校生徒の9割を超える部活動加入率を誇っており、協調性や社会性の習得に繋がっている点が評価できる。

部活動のあり方については、文科省等からの通知のとおり、疲労防止等のために週1回の休みを設けている点や仕事の効率化を目的として教職員の働き方の検討をしている点が評価できる。

【進路指導】

進路指導については、「先輩の話を聞く会」や「企業人の話を聞く会」が行われ、就職や進学への準備、社会の厳しさや心得を知ることなどに繋がっている点、また、進路に関する情報提供が生徒のみならず保護者にも徹底されている点が評価

できる。

【保健管理・安全管理・個人情報管理】

保健管理・安全管理については、危機管理マニュアルが適切に示されている。また、学校薬剤師による環境衛生検査と助言が行われている点が評価できる。

個人情報管理については、規程・細則が明確に示されており、個人情報の管理が適切に管理されている。入試・教務・進路関係の情報管理システムが確立している点が評価できる。

【入試・生徒募集】

校務分掌の「入試室」が中心となり、中学校訪問、教員対象説明会、学校説明会、部活動体験オープンスクール、授業体験オープンスクール、保護者オープンスクール等多岐にわたる方法で、入試広報活動を行っている点が評価できる。

【特別支援教育】

特別支援教育については、事前相談を受けた生徒に対して、入学前に受け入れの準備を行っている。教職員が共通認識を持って迎え入れて、対応している点、入学後も保護者・中学校との連絡を密にしている点が評価できる。

【管理運営】

理事会・評議員会ともに、学校法人望洋大谷学園寄附行為第16条に則り、適切に運営されている点が評価できる。

Ⅲ 財務

収入については、少子化による中卒者の減少により定員確保が難しくなることから、今後の納付金収入の大きな増加は見込めない。支出については、校舎等建設事業による借入金の償還が今後も続き厳しい財政状況となることが予想されていることから、通常業務における経費節減等についても検討していく必要があると思われる。しかし、学生寮購入による入学生確保、寄付募集、借入金の償還計画、教職員適正配置、入学検定料の値上げを行い、財源確保を図っている点は評価できる。また、多額の校務システムを利用せず安価なアプリ（月8ドル）Notionを活用し、出欠管理、学校日誌、保健日誌などの情報共有や決裁を行っている点も評価できる。

以上、今回、北海道大谷室蘭高等学校の教育活動について評価をさせていただきましたが、本校（帯広大谷）としても多くのことを学ぶ機会となりました。今後の教育活動の参考にさせていただきたいと存じます。竹本校長先生をはじめ、ご対応いただきました澤田教頭先生、庭田事務長様には、多くのご助言をいただき、誠にありがとうございました。衷心より感謝申し上げます。 以上